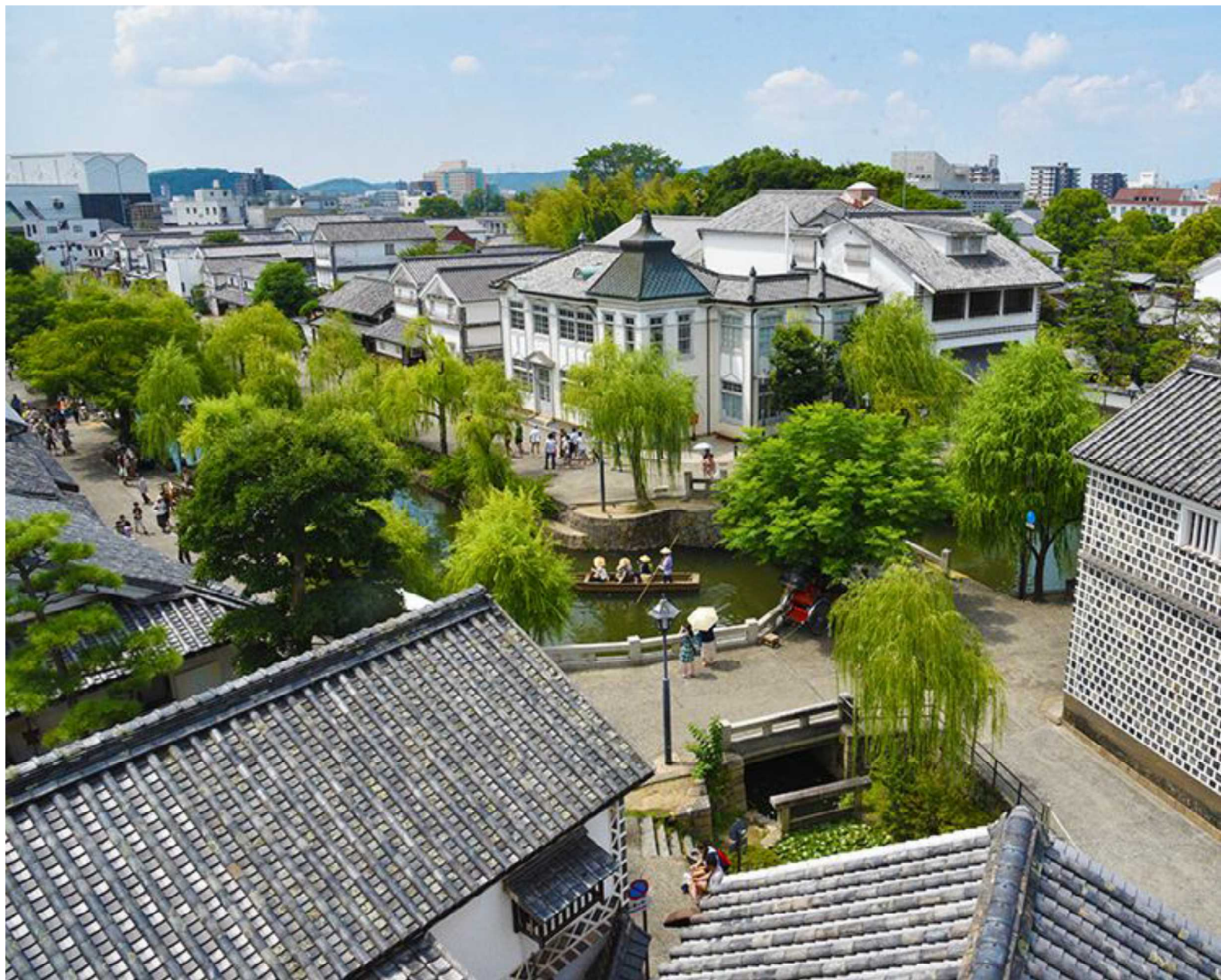


令和7年度 地域づくり 加速化事業 報告会

～伴走支援における取組紹介～

岡山県倉敷市
健康長寿課地域包括ケア推進室



目次

- 1 倉敷市の概要・統計等**
- 2 地域づくり加速化事業にエントリーした理由
- 3 地域づくり加速化事業の支援内容
- 4 成果
- 5 今後について（各事業の具体的な方向性）



倉敷市の概要

■ 瀬戸内海に面する中核市

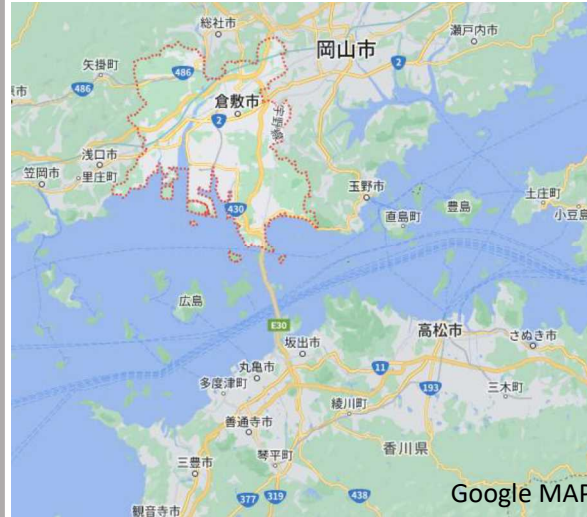
■ 美観地区に代表される観光資源



■ 山と海に囲まれ、農業や漁業がさかん

■ 水島臨海工業地帯を中心とした製造業

■ 国産ジーンズ発祥の地

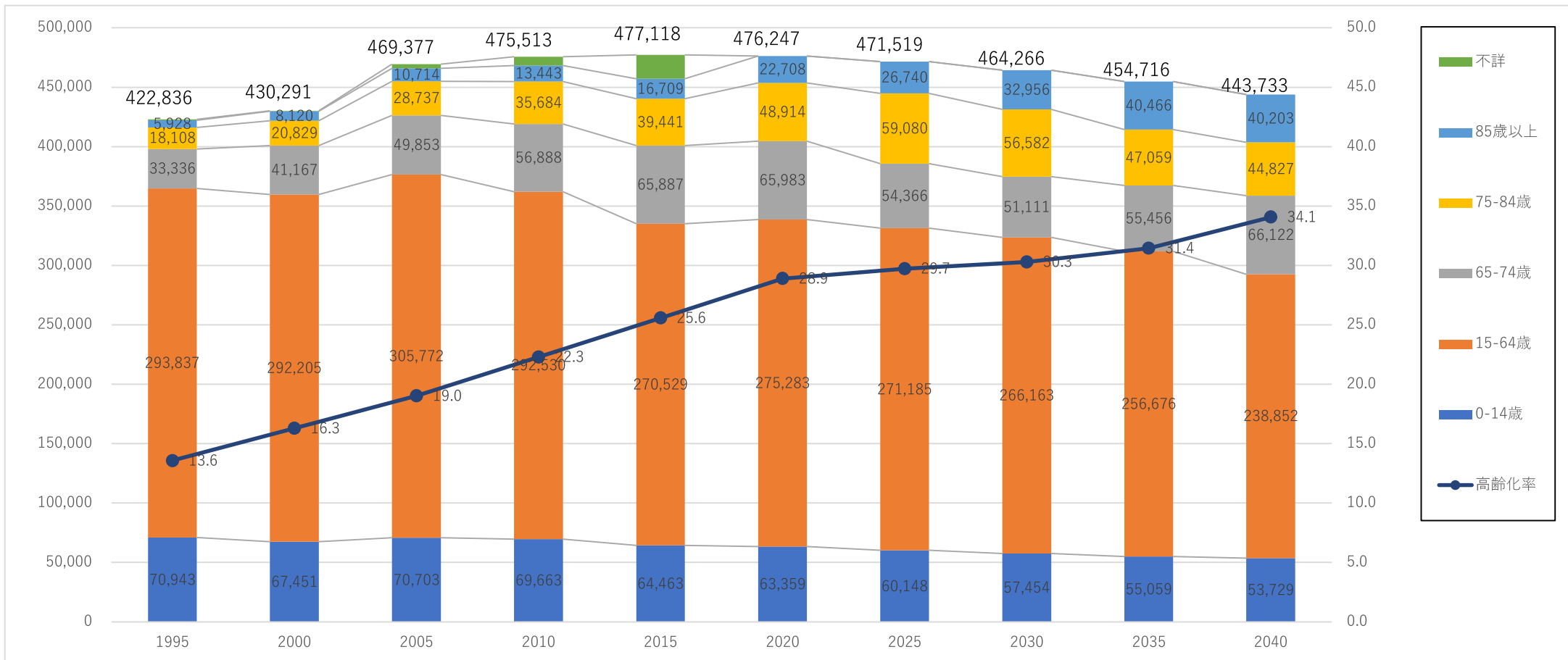


(令和7年12月末現在)

- 人口 471,025人
- 高齢者人口 132,463人
- 高齢化率 28.12%
- 地域包括支援センター数 (全て委託)
25センター、3サブセンター
- 日常生活圏域 26圏域

倉敷市の人口の推移及び将来推計

- 総人口は平成27(2015)年をピークに、15-64歳人口は平成17(2005)年をピークに年々減少している。
- 85歳以上人口は、平成7(1995)年の5,928人が、年々増加して令和17(2035)年に40,466人まで増加していく。



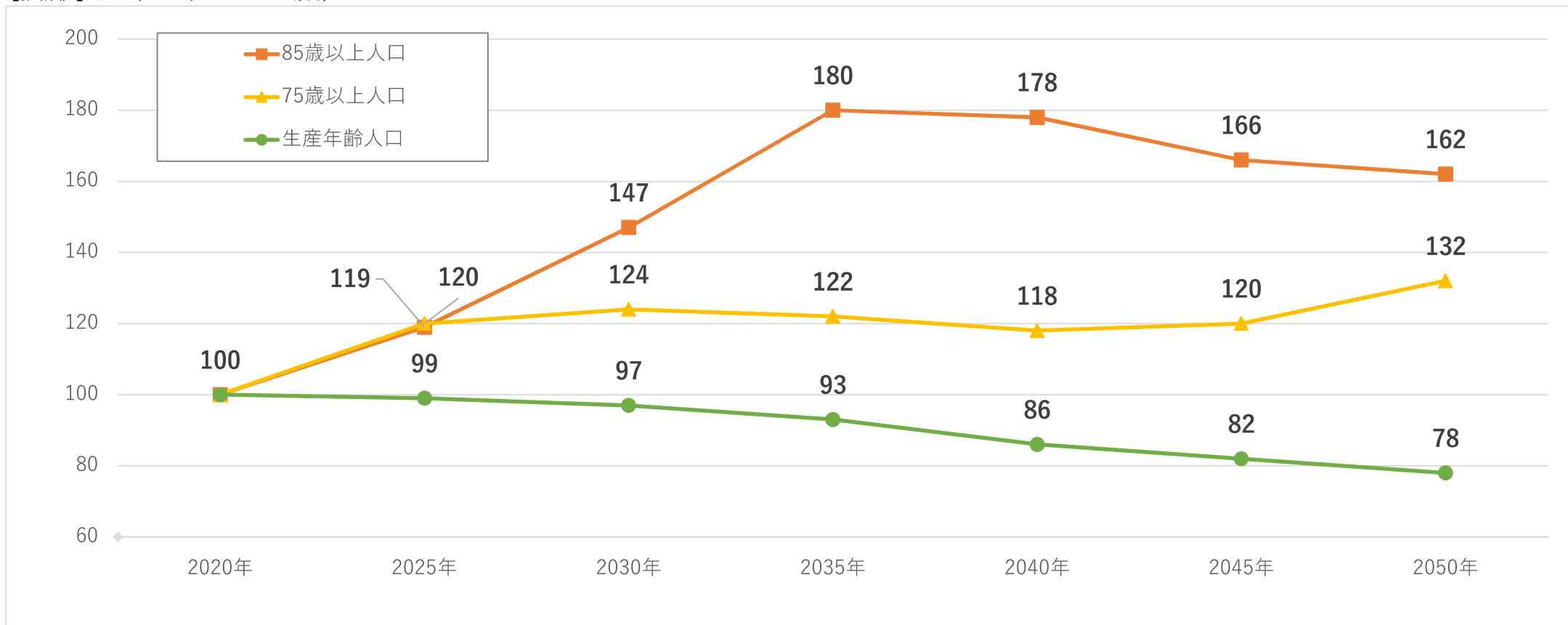
資料：総務省：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所：日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）より作成

倉敷市高齢者福祉計画及び倉敷市介護保険事業計画 令和5年度第1回分科会_資料

倉敷市の人口の構造の変化

- 医療、介護、生活支援ニーズが高まる85歳以上の人口は、2035年がピークの見込み。2025年から2035年にかけて、急激に増加する。

【推計値】人口（2020年を100とした場合）



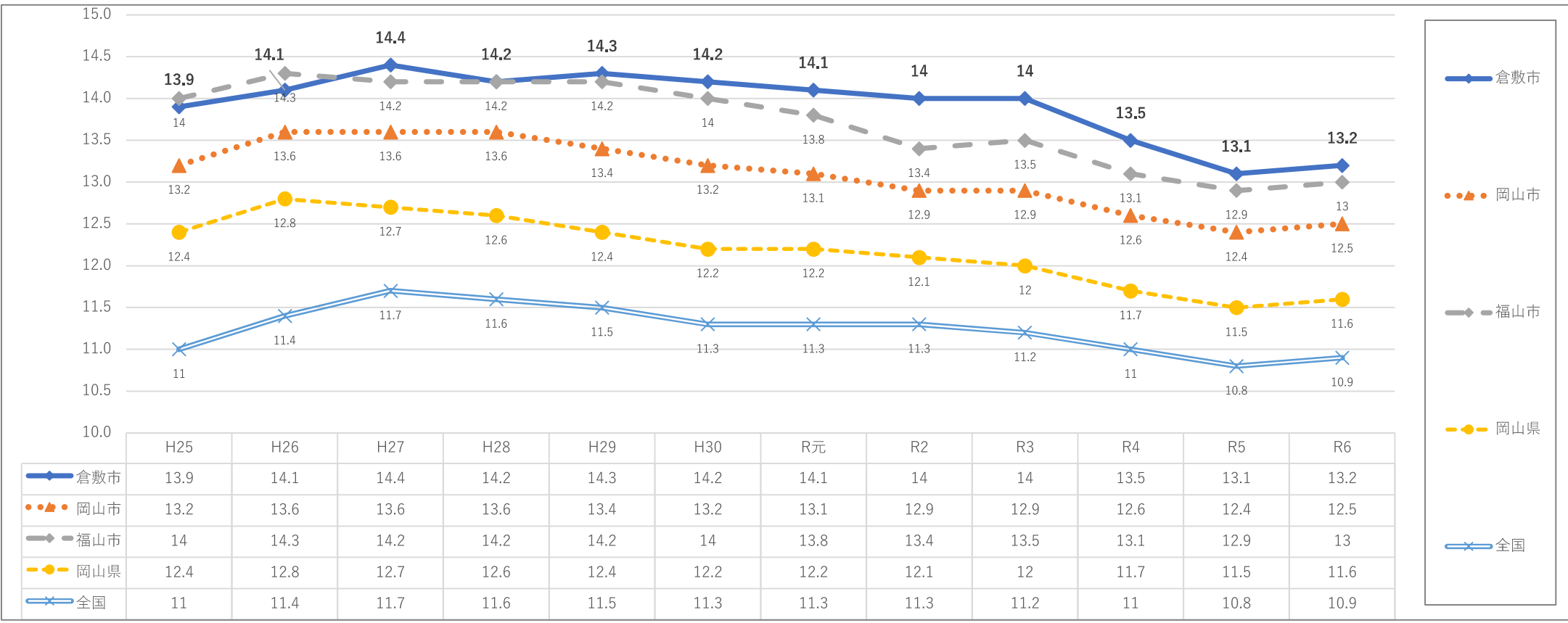
資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティングワークシートより作成

倉敷市の調整済み軽度認定率（国・県・他市との比較）

・調整済み軽度認定率は国・岡山県・他市と比べ高い状況である。

※「軽度認定率」は要支援1～要介護2の認定者の人数を第1号保険者の人数で除した数。

※「調整済み軽度認定率」とは、どの地域も全国平均と全く同じ第1号被保険者の性・年齢構成であると仮定して計算した軽度認定率を意味する。

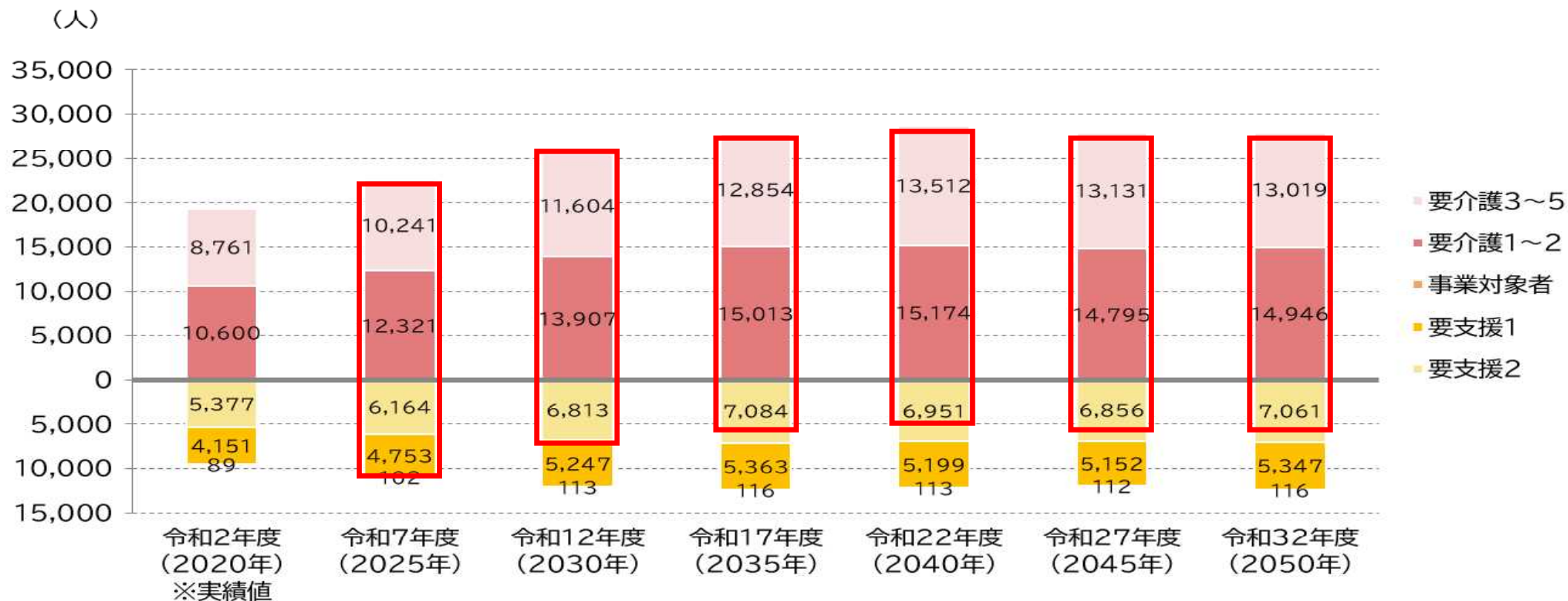


資料：厚生労働省地域包括ケア「見える化」システムより作成

倉敷市の要介護認定者の推移(推計値)：需要(要介護者)と供給(人材)からみた将来の姿

- ・今後、要介護認定者は増加していく見込み。
- ・令和7年度の供給（医療・介護人材）量（赤枠）がそのまま推移するとした場合、徐々に需要（要介護者）に追い付かなくなる見込み。

【推計値】要介護認定者数



出典：（要介護認定者数）令和2年度における年齢別・男女別の要介護認定者の出現率を算出し、各年度の男女別・年代別の推計人口に乗じて算出している
 （事業対象者数）要支援認定者数（推計値）に令和2年度における要支援認定者数に対する事業対象者数の比率を乗じて算出している 合計人数に事業対象者数は含まれていない

資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティングワークシートより作成

倉敷市で実施している介護予防日常生活支援総合事業

	事業名	事業概要	実績 (R5)	実績 (R6)
介護予防・生活支援サービス事業	訪問型従前相当サービス(旧介護予防訪問介護に相当するサービス)	旧介護予防訪問介護に相当するものとして、介護サービス事業者がサービスを提供している。	13,971件 (延)	13,979件 (延)
	通所型従前相当サービス(旧介護予防通所介護に相当するサービス)	旧介護予防通所介護に相当するものとして、介護サービス事業者がサービスを提供している。	29,998件 (延)	31,832件 (延)
	通所型サービスC(短期集中予防サービス)	高齢者の目標達成のための計画的な支援を短期集中的に行うことにより、介護支援及び自立支援の効果が増大すると認められるものに対し、3カ月もしくは6か月の期間において、保健医療に関する専門職により提供する。	18件 (延)	138件 (延)
一般介護予防事業	介護予防把握事業	高齢者支援センター職員が、要介護認定を持たない高齢者の自宅を訪問し、生活状況を聞き取り、必要とされる制度やサービスにつなげる。	21,231人 (延)	21,886人 (延)
	介護予防普及啓発事業	高齢者を対象とする生活機能向上を図るための取組で、介護予防の普及啓発に資する運動、栄養、口腔等に係る介護予防教室を実施する。	センター 7,131人 介護予防事業 18,912人 計26,043人(延)	センター 9,272人 介護予防事業 20,736人 計30,008人(延)
	地域介護予防活動支援事業	地域の高齢者等の個別のニーズにこたえる仕組みを安定的・継続的に構築するため、住民の主体性に基づき運営される新たな住民参加サービス等の担い手としてサポーターを養成し、地域で高齢者等の生活を支えるシステムを構築する。	610人 (延)	693人 (延)
	地域リハビリテーション活動支援事業	高齢者の自立支援・重度化防止の取組として、通いの場へのリハビリテーション専門職派遣のほか、地域ケア個別会議において、支援内容のアドバイスを実施する。	地ヶ個会議 150件 リハ職派遣 22回	地ヶ個会議 150件 リハ職派遣 30回

目次

- 1 倉敷市の概要・統計等
- 2 地域づくり加速化事業にエントリーした理由**
- 3 地域づくり加速化事業の支援内容
- 4 成果
- 5 今後について（各事業の具体的な方向性）



地域づくり加速化事業にエントリーした理由（市の現状と課題）

現状のまとめ

- ・2035年にかけて、医療・介護・生活支援ニーズを持つ85歳以上の高齢者が増える。一方で、生産年齢人口の減少により、医療・介護専門職を確保し続けることは非常に困難となるが見込まれる。（人口構造の変化によるもの）
- ・要支援者のリエイブルメントに向けた取組や高齢者が自分らしい生活を維持するための選択肢が少なく、要支援者の多くが介護保険給付につながっている。（倉敷市の体制・しくみによるもの）

課題

- ・後期高齢者の増加と医療・介護専門職等の確保が困難である見込みであることから、**現在の体制・仕組みを継続した場合、軽度者も介護保険給付に依存する形となり、必要な人にサービスが行き届かなくなる可能性がある**(人材の視点)。
また、財政面においても**費用が増加し続ける**ことが見込まれる(財政の視点)。
- ・フレイルになっても、そこから脱却するための選択肢が少ない中で、**高齢者が自分らしい生活を維持することが難しい**。また、短期集中予防サービスにつながる人も少なく、**従前相当サービスの利用に偏りがち**となっている。(高齢者のQOLの視点)。
- ・軽度認定者を支援する高齢者支援センターの負担もますます増加していくことが見込まれる(人材の視点)。

人材、財政、高齢者のQOLの視点から、**介護予防の取組強化に向けた事業の充実・見直しが必要**と考えた。事業の充実・見直しを行うにあたり、専門家の知見や助言がいただきたいと考え、エントリーへ。

地域づくり加速化事業 支援チームの皆様

株式会社日本能率協会総合研究所 福祉・医療・労働政策研究部 主席研究員 服部 真治氏

洲本市介護福祉課長寿支援係 理学療法士・生活支援コーディネーター 畑山 浩志氏

株式会社日本能率協会総合研究所 介護保険市町村支援チーム 嘱託研究員 井澤 久美氏

中国四国厚生局健康福祉部地域包括ケア推進課

岡山県子ども・福祉部長寿社会課

岡山県備中県民局健康福祉部健康福祉課

厚生労働省老健局



目次

- 1 倉敷市の概要・統計等
- 2 地域づくり加速化事業にエントリーした理由
- 3 地域づくり加速化事業の支援内容**
- 4 成果
- 5 今後について（各事業の具体的な方向性）



目指す姿

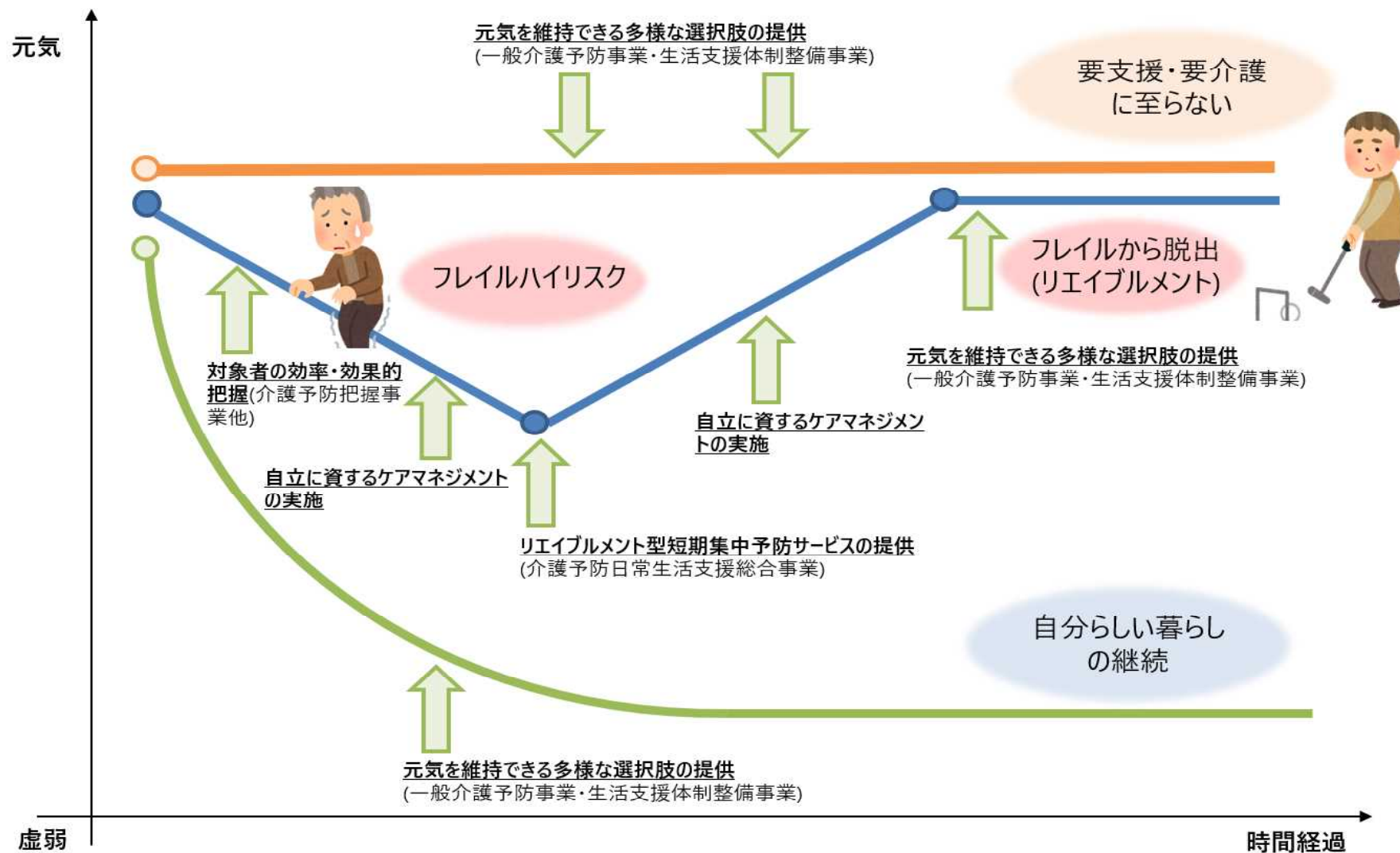
倉敷市の目指す姿（目的）

- ・高齢者が住み慣れた地域で、これまでの経験や知識等を生かしながら、健康で生きがいを持って暮らすことができる。
- ・高齢者が医療や介護が必要になってもその人らしく住み慣れた地域で暮らすことができる。

今後の方向性：特に介護予防の効果が高いと思われる②を中心とした事業等の充実・見直しに取り組む。

	具体的な目指す姿（目標）	取り組む内容	
①	要支援・要介護に至らない高齢者を増やす	・元気を維持できる多様な選択肢の充実・提供	・一般介護予防事業の充実 →通いの場、教室等の充実など
②	本人の能力を最大限活用した自立を促進する	・対象者の効率・効果的な把握 ・自立支援型ケアマネジメントの推進 ・リエイブルメント型短期集中予防サービスの提供 ・元気を維持できる多様な選択肢の充実・提供	・介護予防把握事業の見直し ・介護予防日常生活総合支援事業等の見直し →リハビリ専門職同行アセスメント・自立支援型の地域ケア個別会議の実施 →リエイブルメント型短期集中予防サービスの構築 ・生活支援体制整備事業の充実 →多様な主体によるインフォーマルサービスの充実、プラットフォームの整備、地域ケア個別会議への参画等
③	支援が必要になっても、多様な選択肢から自分にあった支援・サービスを選び、自分らしく暮らすことができる高齢者を増やす	・その人にあった多様な選択肢の充実・提供	・①に同じ

目指す姿（イメージ図）



地域づくり加速化事業において検討していきたいこと

支援開始前

- ・介護予防強化に向けた地域支援事業全体の仕組みの検討
- ・機能低下した高齢者の効果的・効率的の把握する取組の検討（介護予防把握事業、総合相談）
- ・低下した運動機能・生活機能を取り戻し、維持するための取組の検討（短期集中予防サービス）
- ・本人の状態像に合わせたサービス・支援につながる介護予防マネジメントを推進する取組の検討（介護予防ケアマネジメント）

支援開始後

- ・自立支援型ケアマネジメントの推進に向けた取組（地域ケア個別会議、リハビリ専門職同行訪問）
- ・リエイブルメント型短期集中予防サービス



全体の流れ

	支援チームとの動き	課・担当者の動き	
4月		現状・課題の整理→資料を作成→課内協議→事業へエントリー	
8月5日	0.5mtg	課内コアメンバー＋課内メンバーが出席 ※課内コアメンバーは課長を含む係長級以上の職員8名	
8月29日	1回目現地支援	課内コアメンバー＋課内メンバーが出席	
9月8・16日		課内コアメンバーmtg（現地支援に向け、方向性の協議）	
10月1日	1.5mtg	課内コアメンバー＋課内メンバーが出席	
10月29日	厚労省からサポートあり	オンライン視察：大垣市役所（訪問型短期集中予防サービス、リハ職同行訪問アセスメントについて視察）	
10月31日	井澤ADからサポートあり	現地視察：老人保健視察はくあい、防府市役所（通所型短期集中予防サービス、行政の体制構築について視察）	
11月11日		高齢者支援センター向け検討会前オンライン説明会	
11月12日		短期集中予防サービス事業所へ訪問し、検討会について説明	
11月18日		課内コアメンバーmtg（視察報告、方向性の検討）	<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・mtg、現地支援前の資料作成 ・担当者間のmtg ・今後の検討材料となるデータの整理や調査の実施 ・関連事業との連動性の検討
12月1日	1.75mtg	課内コアメンバー＋課内メンバーが出席	
12月10・16日		各検討会に参加する課内メンバーmtg	
12月22日	2回目現地支援	課内コアメンバー＋課内メンバーが出席	
1月21日		課内コアメンバーmtg（現地支援に向け、方向性の協議）	
1月26日	2.5mtg	課内コアメンバー＋課内メンバーが出席	
2月6日		課内コアメンバーmtg（現地支援のすすめ方について協議）	
2月12日	3回目現地支援	課内コアメンバー＋課内メンバーが出席	
2月13日	服部AD、井澤ADに講演依頼	専門職向けフォーラムの開催（専門職ヘリエイブルメント型支援の重要性と市の方向性を説明）	

1 回目現地支援

▶日時 令和7年8月29日 9:00~16:00

▶参加者 アドバイザー、中国四国厚生局、岡山県庁、備中県民局、厚生労働省の皆様、倉敷市職員

▶内容 ①自己紹介 ②服部AD講話 ③倉敷市の課題の共有 ④事例検討・意見交換（令和6年度に地域ケア個別会議で検討した事例のうち、市内でよく見られる事例10ケースをもとに事例検討実施。事例検討を通じて、倉敷市が抱える介護予防に関する課題を整理した。）

【地域ケア個別会議の事例を通じて見えてきた倉敷市の課題】

- ①多くのケアマネジャーが忙しく、時間をかけてプランを考えることができていないのではないか。
 - ②多職種と連携したアセスメントを行う環境が整っていないのではないか。
 - ③対象者の暮らしより、足りないところを補う視点のプランになっているのではないか。
 - ④選択肢が少ないため「デイサービスにつなぐ」ことが定番の流れになっているのではないか。
- 倉敷市の体制が自立支援に資するケアマネジメントにつながるものになっていないのではないか。

【意見交換を通じて得られた気づき、認識を深めたこと】

- ・介護予防の仕組みづくりにおいて、**ケアマネジメントのあり方が重要**であること。
- ・**リハ職同行訪問は、ケアマネジメントにおける発想の転換や気づきを促すものとして有効**であること。
- ・**リエイブルメント型短期集中予防サービスは根本的原因に働きかけ、元通りの生活につながる理想的なアプローチ方法**であること。

今後、検討していく内容について明確にすることができた！



1回目現地支援終了⇒1.5mtg、1.75mtg

1回目現地支援終了後に、課内コアミーティングを実施（9/8、9/16）し、全体の方向性等を確定。

【全体の方向性】

・当初、考えていた短期集中予防サービスの仕組みづくりだけではなく、自立支援型ケアマネジメントの推進に向けた取組みを両輪で行う必要がある。そのため、関係する専門職（リハビリ専門職、高齢者支援センター職員、短期集中予防サービス指定事業所職員）に議論に参加してもらいすすめていく。→ 2回目現地支援において、「自立支援型ケアマネジメント推進に向けた検討会」と「短期集中予防サービス検討会」を実施する。

【倉敷市が目指す短期集中予防サービスとは】

・リエイブルメント型を中心とし、個別の生活課題へのアプローチを重視しながら、集団の良さも活用できるような柔軟なプログラム構成を検討していく。プログラムの構成にあたり、自分らしく生活していくために、個人の目標や願いを引き出し、「行動変容」を促し、「習慣化」につなげる要素を重視する。

・まずは、介護予防把握事業で把握したリスクのある人のうち、対象者を短期集中予防サービスにつなげていく。今後、窓口・総合相談からつないでいく流れも検討していく必要がある。

【その他】

・既に事業を実施している先進地の視察を行い、モデル事業や事業構築の参考にしていく。→大垣市、防府市視察へ

1.5mtgにて、市で検討した方向性をお伝えし、それを踏まえ、2回目支援のすすめ方について検討。

さらに、視察での学びを踏まえた2回目支援につながるよう1.75mtgの開催を依頼し、実施していただいた。（加速化事業外）

全体の方向性が
確定した！



2回目現地支援

▶日時 令和7年12月22日 9:00~16:00

▶参加者 アドバイザー、中国四国厚生局、岡山県庁、備中県民局、厚生労働省、短期集中予防サービス指定事業所、リハビリ専門職団体連絡会、倉敷市高齢者支援センターの皆様、倉敷市職員

▶内容 ①短期集中予防サービス検討会 ②自立支援型ケアマネジメント推進に向けた検討会（①②では服部ADの講話、今後の方向性の説明、意見交換を実施）③アフターミーティング

【検討会の実施目的】

・検討会に参加する関係者との現状や課題の共有と今後の方向性に対する理解と合意形成、今後の検討への参加継続を図ること。

【意見交換の内容→取り組むべきこと】

・高齢者は自分の体調に関する「不安」がきっかけとなり、従前相当につながっている現状がある。高齢者が自信を取り戻し、不安が軽減されるよう支援をしていく必要がある。

→高齢者の自信を取り戻す＝不安軽減のためのアプローチが大切

・病院では退院する方が在宅に戻る際など、元気になる・維持する方法として、介護保険サービスにつなぐことが多い。ケアマネジャーだけでなく様々な専門職が、自立支援（リエイブルメント）に対する理解を深め、考え方を変えていく、共通認識を持つためにも、繰り返し研修や説明の機会が必要。

→様々な専門職のパラダイムシフトの必要性。繰り返し周知し、リエイブルメントの考え方の統一を目指していく

・短期集中予防サービス利用後の活動・参加へのつなぎについて、自立支援型地域ケア会議などを活用し、SCを含めた多職種で検討できるよう体制を整える。

→地域ケア個別会議は専門職が意識を揃えるための学びの場、リエイブルメントの考え方に基づくケアマネジメントの実践的な検討の場にしていく

・経営、マンパワーに対する不安がみられた。予算面、人材面も考慮しながらの事業構築が必要。

・財政部局への説明には、モデル事業を実施し、成功事例から給付費抑制の効果を可視化していくことが有効。

・関係者に参画してもらうことができた!
・現場の声から、取り組むべきことが見えてきた!



2回目現地支援終了⇒2.5mtg

2回目現地支援終了後に、担当者間で検討。課内コアミーティングにより3回目の進め方及び方向性を確認。

【3回目進め方・方向性】

(午前)

リエイブルメント対象者像・選定基準の明確化に向けた検討

→介護予防把握事業で把握した事例、令和7年度上半期の介護予防把握事業の結果から検討を行う。

※事例検討については地域個別ケア会議の実施方法として参考とする。

※支援チーム、事業所、専門職、高齢者支援センター、S Cの皆様、市で検討。

(午後)

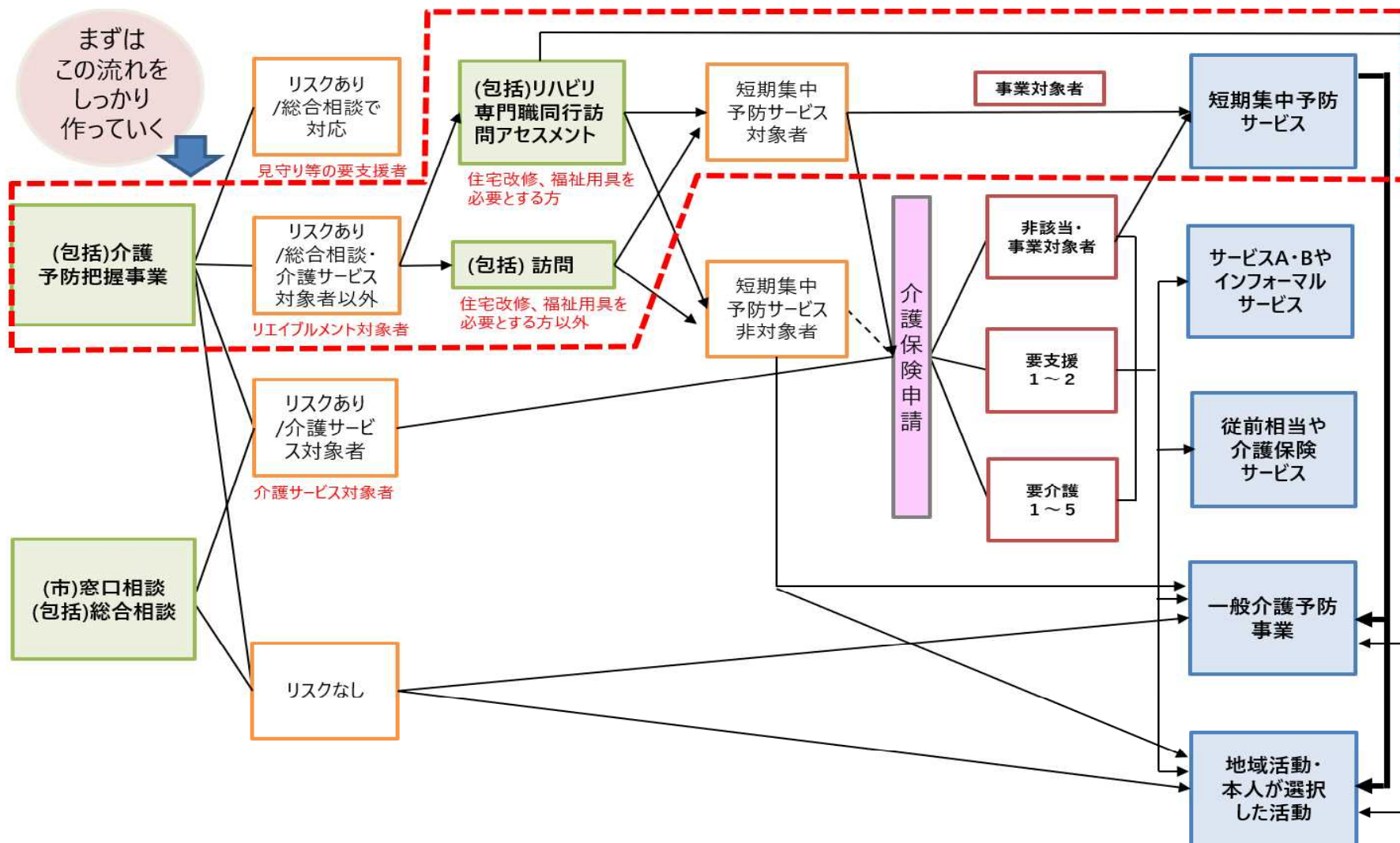
アセスメントシート、評価指標、ロードマップの作成に向けた検討

→午前中の議論を踏まえ、「介護予防把握事業アセスメントシート」「介護予防に関する取組についての評価指標」「次年度以降のロードマップ」について、市の案をベースに検討を行う。

※支援チーム、市で検討。

2.5mtgにて、市で検討した方向性をお伝えし、概ね了承いただく。評価指標の作成にあたって、服部ADから講話していただくこととなる。

対象者把握～事業利用フロー図（令和9年度～）案



3回目現地支援

▶日時 令和8年2月12日 9:00~16:30

▶参加者 アドバイザー、中国四国厚生局、岡山県庁、備中県民局、厚生労働省、短期集中予防サービス指定事業所、リハビリ専門職団体連絡会、倉敷市高齢者支援センターの皆様、倉敷市職員

▶内容 ①リエイブルメント対象者像・選定基準の明確化に向けた検討 ②アセスメントシート、評価指標、ロードマップの作成に向けた検討

リエイブルメント対象者像・選定基準の明確化に向けた検討

●リエイブルメント対象者像 = 短期集中予防サービスの対象となる人

- ・意欲低下・閉じこもり層（最優先対象）
アセスメントシートで「閉じこもり（週1回以上外出しない）」や「うつ傾向」に該当する人。
単に身体機能が低だけでなく、心理的な要因で活動性が低下している層。
- ・身体的リスクがありつつ自立の可能性のある層
転倒歴がある、または手首の骨折など「適切な介入により早期の生活改善が見込める」状態にある人。 ※「意欲が高く身体機能が低下している人」は卒業（改善）しやすい。
- ・「真のリエイブルメント」が必要な層
意欲が低下しており、マネジメントや寄り添いによって活動性を引き出し、社会へ送り出す必要がある層（ただし、事業所側の高いスキルが求められる）。

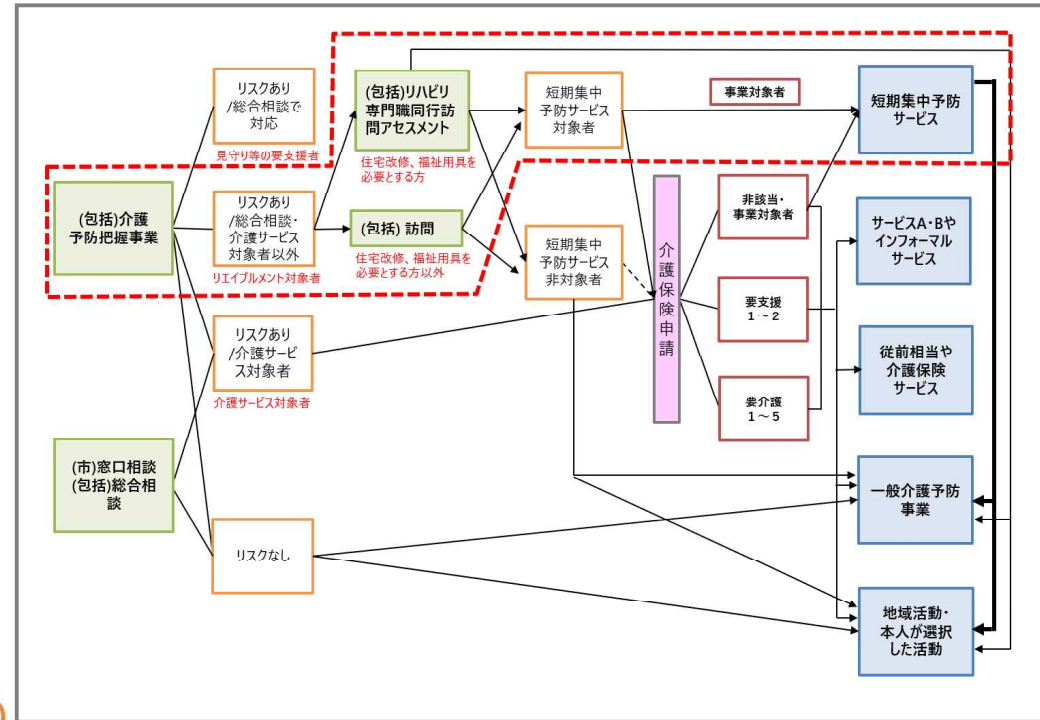
●介護サービスにつなげることが適当と思われる人

- ・認知機能低下が顕著な人。
- ・ADL（日常生活動作）に重度の支援が必要な人。

●選定基準

- ・リエイブルメント対象者像に該当する人をアセスメントシートを活用し抽出。
- ・アセスメントシートで抽出される点数だけでは現れない「困りごと」や、高齢者支援センター職員のアセスメントにより、「サービスC（短期集中）がふさわしい」と判断されるケース（ストライクゾーンを広めに設定する）。

・介護予防の取組の核となるリエイブルメント対象者像が明確になった。
・評価指標を作成し、やるべきことが明確になった。



アセスメントシート、評価指標、ロードマップの作成に向けた検討

- ・午前中の議論を踏まえ、「介護予防把握事業アセスメントシート」、「介護予防に関する取組についての評価指標」「次年度以降のロードマップ」について、市の案をベースに検討を実施。

介護予防の取組における評価指標（案）

※修正中

アクティビティ	アウトプット	初期アウトカム	中間アウトカム	最終アウトカム (目指す姿)
介護予防普及啓発事業 ・介護予防・転倒骨折予防・健康長寿教室 ・栄養改善教室 ・介護予防普及啓発事業	・介護予防教室実施回数 (高齢者支援センター実施分、事業団実施分) ・広報回数	高齢者がフレイル状態になることを予防できる 【評価指標】 ・介護予防教室に参加した高齢者数 ・出前講座に参加した高齢者数	要支援・要介護に至らない高齢者が増える 【評価指標】 ・高齢者の社会参加率 ・通いの場における75歳以上の参加率	・高齢者が住み慣れた地域で、これまでの経験や知識等を生かしながら、健康で生きがいを持って暮らすことができる。 ・高齢者が医療や介護が必要になってもその人らしく住み慣れた地域で暮らすことができる。 【評価指標】 ・調整済み軽度認定率 ・初回認定者の平均年齢 ・主観的健康観 ・主観的幸福感
地域介護予防活動支援事業 ・ふれあいサロン活動支援事業 ・介護予防支援ボランティア事業（いきいきポイント）	・通いの場の数（把握数） ・通いの場立ち上げ・継続支援回数 ・いきいきポイントの登録施設数 ・いきいきポイントの広報回数	高齢者が社会参加を継続できる 【評価指標】 ・通いの場に参加している高齢者数 ・就労している高齢者数 ・いきいきポイントの登録者数		
介護予防把握事業 ・高齢者実態把握調査	・高齢者実態把握調査人数（実）	フレイル傾向のある高齢者を早期に把握できる 【評価指標】 ・短期集中予防サービスにつないだ人数	本人の能力を最大限活用した自立を促進する 【評価指標】 ・一定期間後の状態の変化	
地域リハビリテーション活動支援事業 ・リハビリ専門職同行訪問アセスメント （・自立支援型地域ケア個別会議）	・リハビリ専門職同行訪問実施人数	ケアマネジャーがリハビリ専門職による高齢者の身体や生活の評価により、予後予測を活かした目標設定、生活改善につながる適切なケアプラン作成ができる 【評価指標】 ・従前相当サービス以外の活動・サービスにつながった人数		
サービス・活動事業 ・短期集中予防サービス（リエイブルメント型）	・短期集中予防サービス開催回数 ・短期集中予防サービス参加者数 ・短期集中予防サービス指定事業所数	フレイル傾向のある高齢者が元の生活を取り戻し、自分らしく暮らすことができる 【評価指標】 ・短期集中予防サービス利用前後の状態の変化 ・短期集中予防サービス卒業者数		
地域ケア会議推進事業 ・自立支援型地域ケア個別会議	・自立支援型地域ケア個別会議実施回数	専門職がリエイブルメントに対する共通の認識を持つことができる 【評価指標】 ・自立支援型地域ケア個別会議に参加した専門職の人数 ・リエイブルメントに対する理解度		
生活支援体制整備事業 ・資源開発 ・ニーズと取組のマッチング ・ネットワークの構築	・多様なサービス・活動の立ち上げ・継続支援を行った団体等の数 ・多様なサービス・活動の立ち上げ・継続に向けた協議回数 ・高齢者のニーズとサービス等のマッチング回数	多様な主体が軽度者を支えるサービス・生活資源を立ち上げることができる 【評価指標】 ・生活支援サービスの種類・数 ・通いの場の種類・数	選択できる支援・サービスが増える 【評価指標】 ・従前相当が位置付けられたプランの割合	

目次

- 1 倉敷市の概要・統計等
- 2 地域づくり加速化事業にエントリーした理由
- 3 地域づくり加速化事業の支援内容
- 4 成果**
- 5 今後について（各事業の具体的な方向性）



成果

最も大きい成果

・繰り返しの話し合い、支援チームによるアドバイスを受け、担当者、課内での課題の共有や目指す姿に向けた意識のすり合わせができた。課内でのこのような積み重ねが「事業の充実・見直し」に向けての大きな土台となった。

その他の大きな成果

- ・当初、課内のみで検討を進めていくこととしていたが、市内の専門職等の関係者に議論に参加していただき、現状や課題を共有することができた。
- ・研修会を開催し、リエイブルメントの理解や市の方向性を伝えることができ、様々な専門職のパラダイムシフトに向けた第一歩とすることができた。
- ・評価指標、ロードマップの作成により、次の担当者につながるバトンを作ることができた。



目次

- 1 倉敷市の概要・統計等
- 2 地域づくり加速化事業にエントリーした理由
- 3 地域づくり加速化事業の支援内容
- 4 成果
- 5 **今後について（各事業の具体的な方向性）**



今後について（各事業の具体的な方向性）

【介護予防把握事業】

・リエイブルメント対象者を効果的・効率的に把握できるよう、事業構築を行っていく。

R8年度検討 R9年度開始予定

【短期集中予防サービス】

・セルフケアマネジメントを行い、介護サービスを使わなくても、社会資源を活用しながら、自分らしい生活を送ることができる元気高齢者が増える（＝要介護認定率の低下）よう、リエイブルメント型短期集中予防サービス導入に向けた検討を進めていく。防府市のマニュアルを参考にしつつ、内容は事業所の方々と一緒に検討する。短期集中予防サービスを利用する方については、介護保険の申請をせず、事業対象者での利用を想定。

各事業の評価指標を設定予定

【自立支援型ケアマネジメント】

・様々な専門職がリエイブルメント型支援についての意識を揃えるための学びの場、リエイブルメントの考え方に基づくケアマネジメントの実践的な検討の場として、地域ケア個別会議を活用できるよう検討を進めていく。内容については、高齢者支援センター、リハビリ専門職、生活支援コーディネーターと検討する。

【リハビリ専門職同行訪問アセスメント】

・リハビリ専門職の専門的視点がケアマネのアセスメントに加わることにより、予後予測を活かした目標の設定や生活での工夫の提案から、生活改善につないでいくことができ、ケアマネのアセスメント力の向上にもつながることから、リハビリ専門職同行訪問について検討を進めていく。内容については、高齢者支援センター、リハビリ専門職、生活支援コーディネーターと検討する。

【生活支援体制整備事業】

・元気を維持できる多様な選択肢の充実・提供に向けて、高齢者のニーズを踏まえ、サービスの創出を行うとともに、多様な主体と連携していく。

さいごに

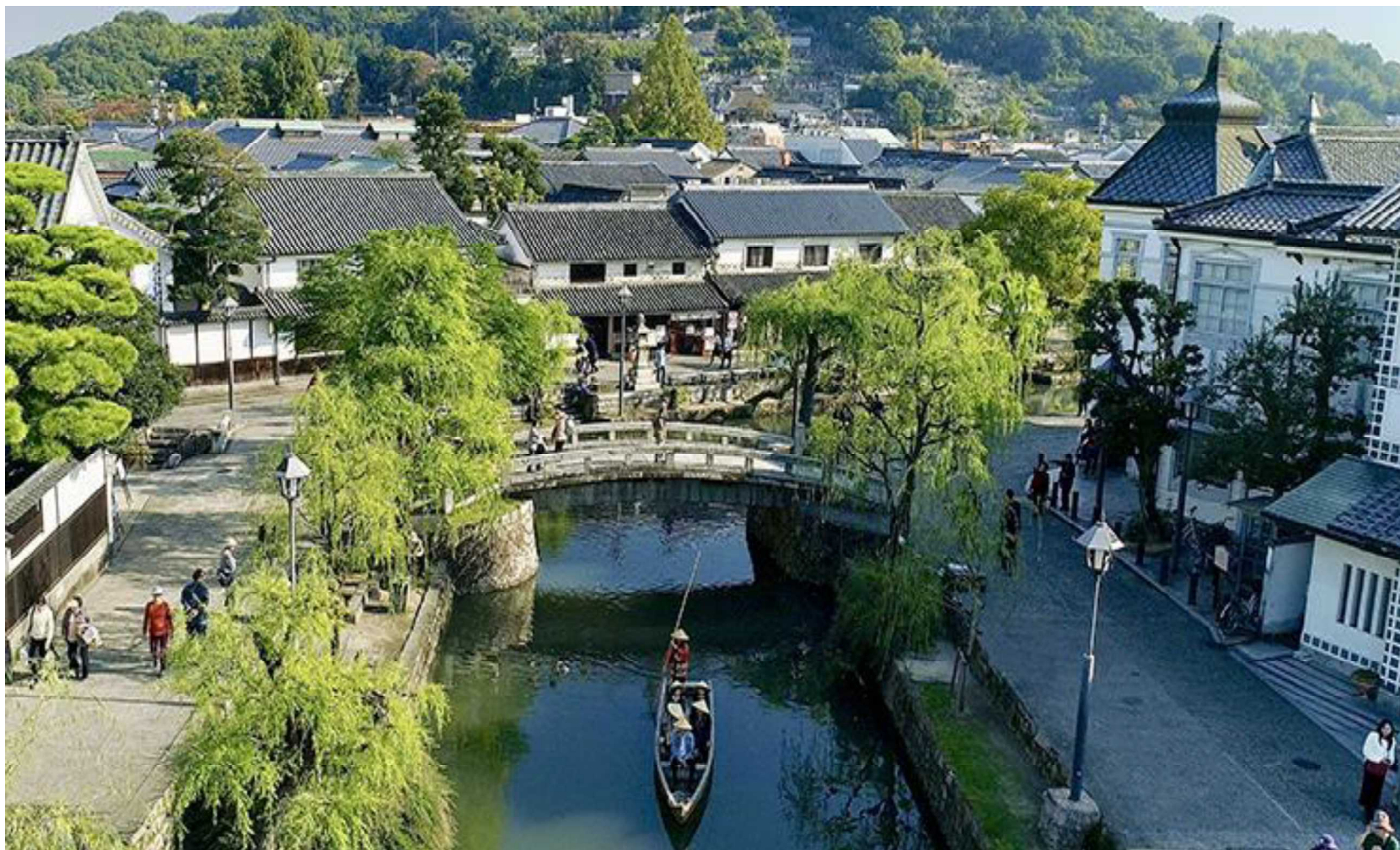
伴走していただいたこの半年間、支援チームの皆様は、新しい知見や好事例の提供、技術的な支援を下さっただけでなく、いつも温かい言葉をかけてくださいました。

皆様のサポートがあり、最後まで頑張ることができました。

アドバイザー、その他の支援チームの皆様、本当にありがとうございました。



ご清聴ありがとうございました。



地域づくり加速化事業報告会 ～岡山県～



©岡山県「ももっち・うらっちと仲間たち」

岡山県備中県民局健康福祉部健康福祉課

岡山県備中県民局(県西部10市町を所管) 市町村支援の経緯

備中県民局の状況

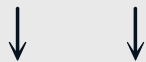
- ・要介護認定率が高いトップ3(県内)の市町村が全て管内にある。
- ・8期→9期にかけて保険料基準額を増額した市町村が多い。

何か市町の役に立つことができないか

そうした中、

「地域支援事業実施要綱・総合事業ガイドラインの改正」

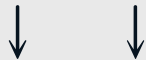
これは、地域包括ケアシステムに携わる誰もが理解しないといけない内容なのでは??



R6年度に研修会「総合事業ガイドラインの改正」開催。

参加対象者：地域包括ケアシステムを支えるすべての人

→管内以外の市町村等からも多数の参加希望があり全て受け入れ。



**この研修会を倉敷市の加速化事業の後押しとできないだろうか。
(加速化事業の横展開の意味も含め)**

第1回目研修会（10月開催）

講義「これからの総合事業～第10期介護保険事業計画策定に向けて～」及び質疑応答

（講義） 地域支援事業実施要綱・総合事業ガイドライン改正のポイントを解説。
10期計画策定に向けて取り組むこと、多様な生活支援・介護予防サービスの作り方等について学びを深めた。

（質疑応答） 疑問や不安に感じていることは解消してもらうよう質疑応答の時間も設けた。他市町村の疑問を聞くことも、理解を深めることに繋がった。



市町村、包括、社協等から管理職も含め様々な職種（保健師、社会福祉士、主任ケアマネ、SC、事務職等）が参加し、70名を超える参加者となった。

第2回目研修会（1月開催）

講義「自立支援に資する地域ケア会議の充実に向けて」 及び演習（模擬地域ケア会議）

（講義）リエイブルメントとは、といったところから解説。一人の暮らしを支えることから考える視点について学びを深めた。

（演習）模擬地域ケア会議の演習を通じて参加者全員が考えるとともに、通常業務では接することの少ない職種の見解も聞くことができる実践的な研修となった。



倉敷市が委託先に考えを示した後での開催となったことから、倉敷市内の包括、SC、介護事業所や病院に勤務するリハ職等からも参加いただき演習も充実したものとなった。

研修会の感想から

1 回目研修

- ・地域支援事業の改正点や改正の目的、目指すべき姿について改めて話を聞いたことでより理解が深まった。現在見直しを行っている事業を考えるポイントを得ることができた。やはりSCと地域包括支援センターの接続の重要性がよくわかった。
- ・これからの総合事業は、専門職がサービスを直接提供するよりも利用者本人が選択することを支援する専門職という立場になっているとわかりました。
- ・今回の講義で要支援の考え方や自立支援の取り組み方がよくわかりました。課内でも共有し、実施に向けて調整したいと思います。

2 回目研修

- ・本人としっかり向き合い、話をすることで、困りごとの洗い出しや今後の支援につながると感じた。
- ・リエイブル = 難しくない。と先生の講義を受けて知ることができた。発想の転換をしたいです！！ ニーズと取組のマッチングの手順が分かりやすかったです。戻りたい生活に戻れることを意識したい。
- ・元々の生活に戻すという原点の考え方を見つめなおし、自分のやるべきこと、考え方がしっかりわかりました。
- ・市の動向をききながら、イメージしていきたい。

リエイブルメントがイメージできるようになった！

今後の支援に向けて

研修会の継続

- ・研修会は（予算が確保できれば）次年度も継続して開催したい。
- ・研修会のテーマ等については、倉敷市が取り組んでいる内容等も踏まえて企画をしていきたい。

関係団体との調整

- ・当所属は保健所に併設されており、今後、倉敷市の取り組みが進む中で、医師会等の関係団体との調整等が必要となったときには、協力できる体制がある。ただし、こうしたことは時期や方法等含め市の意向に沿って慎重に進めたい。

伴走型支援

- ・県庁とも協力し伴走型支援の取り組みを進める。



倉敷市及び支援チームの皆様、ありがとうございました。

地域づくり加速化事業の支援を受けて

地域づくり加速化事業報告会
令和8年3月6日（金）
府中町福祉保健部高齢介護課



目次

- 1 府中町の概要
- 2 地域づくり加速化事業エントリーの背景
- 3 伴走支援において支援チームへ望むこと・町の願い
- 4 第1回支援《R7.7.24(木)》
- 5 第2回支援《 R7.10.14(火) 》
- 6 第3回支援《 R8.1.20(火) 》
- 7 支援後の気づき、思い
- 8 来年度に向けて ～ 今後の取り組みとビジョン ～

1 府中町の概要 (1)

▶ どこにある？

- ✓ 広島県の南西部に位置

▶ どんな特徴がある？

- ✓ 広島市に囲まれ、安芸郡の飛び地という全国的にみても特徴のある形態
- ✓ 江戸時代の府中村とほぼ同じ区域のまま明治22年の市町村制施行により

府中村に、以後合併の歴史もなく、昭和12年には町制を施行し、現在に至る



1 府中町の概要 (2)

▶ 産業は？

自動車産業(マツダ株式会社)



大型SC(イオンモール広島府中)



▶ 町の花 (つばき)



町の木 (くすのき)



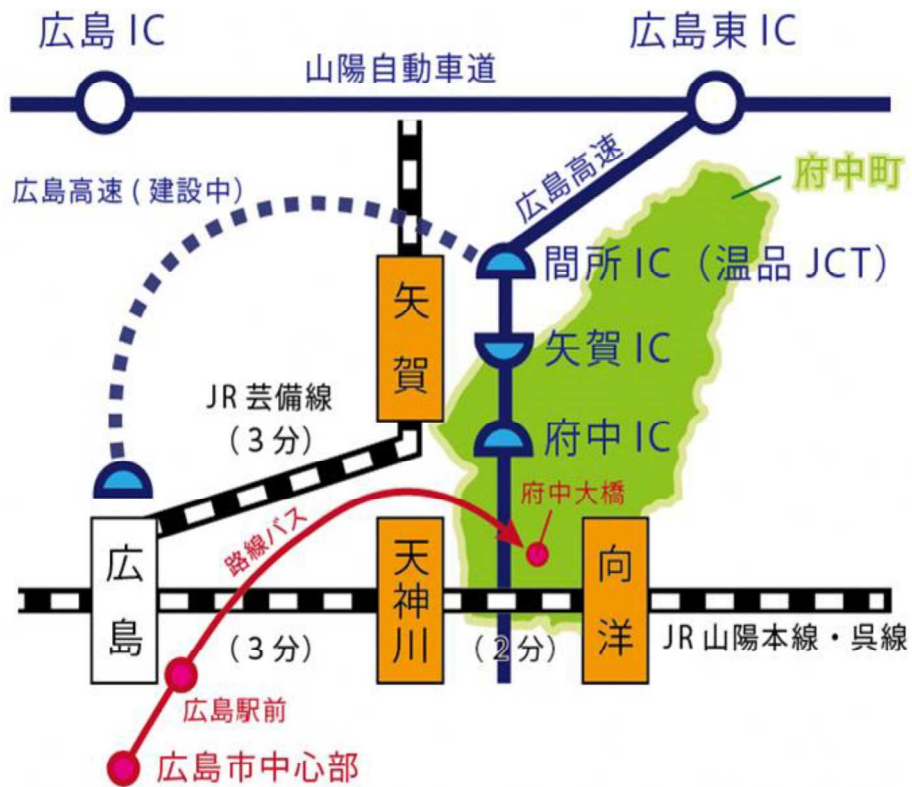
椿町ファミリー



府中町PRキャラクター

1 府中町の概要 (3)

▶ 便利がいいまち



JR広島駅へJR :約 5分
広島市中心部へ路線バス:約25分
カープ観戦へ自転車 :約10分



1 府中町の概要 (4)

R7.4月現在

▶ 人口など

面積	10.41km ² (県内で最小!)
総人口	52,014人
高齢者人口	13,064人
うち、前期	5,420人
うち、後期	7,644人
高齢化率	25.10%
後期高齢化率	14.70%
認定率	18.04%
日常生活圏域	1(連携がとりやすい!)

※令和2年国勢調査 総人口 51,151人

全国で1番人口の多い「町」



2 地域づくり加速化事業エントリーの背景 (1)

R6 課題の
気づき

令和6年度広島県介護サービス基盤安定化市町支援事業へエントリー



R6 課題

総合事業の**上限超過**
さらに、**地域支援事業交付金の上限超過の計算が間違っている**ことも判明



上限超過問題をどうにかしないと！

R6 加速化
事業

年度末に地域づくり加速化事業報告会の案内で本事業の存在を知り、
広島県担当者に相談



2 地域づくり加速化事業エントリーの背景（2）

R7 問題勃発

内部の体制が整わないことや応募することにより、事務負担が増えることが懸念され、応募に対して反対意見が多かった

残念だけど、諦めよう…

R7 県から後押し

県担当者から何度も連絡をいただき、町社協、町包括に相談絶対やるべき！との心強いお言葉をいただき、担当部署内で同じ課題を共有していた職員からも、今年やるべき！と後押ししてもらい、課内の説得にあたる

R7 エントリー

課内の了解も得られ、エントリー



3 伴走支援において支援チームへ望むこと・町の願い

✓ 上限超過問題を解決するための方向性を考えたい

- ・1年で解決できることではないが、原因から解決に至る道すじをみつけない

✓ 総合事業の見直し(リデザイン)を行いたい

- ・リデザイン後の事業の目標を明確にする(どのような状態を目指すのか)
- ・町だけではなく、社協、包括とも進めていくにあたって、成功事例を参考にしたい
- ・目標達成に向けた具体的な施策を検討したい

✓ リデザインするにあたり、道すじについてアドバイスしてほしい

- ・実現可能性、費用対効果などを考慮し、優先順位をつける
- ・関係者との合意形成を図るための計画を立てる
- ・全体的なスケジュールを立てる



4 第1回支援《R7.7.24(木)》 (1)

✓ 地域づくり加速化事業の説明

✓ 事業の共有

高齢介護課全体での共有
福祉課(障害者福祉の担当)
も参加



✓ ビジョンの明確化

計画に掲載しているものだと抽象的なため、具体的なビジョンを考える



4 第1回支援 (2)

✓ 課題の洗い出し 大きく分けて3つに分類

■ 入口…共通のルール作り

(町と包括、又は担当者で**基準が異なっている**)

■ 事業(見直し、創設)

… 従前相当サービスしかないため、本来なら従前相当サービスでなくてもよい人も利用することになっている(**多様な選択肢が必要**)

半日型DSと一日型DSの報酬が同じため、事業費増大

■ 出口…選択肢はあるが分かりにくい。**資源の見える化**が必要

【参加者】 計30名

加速化事業アドバイザー	2名	府中町高齢介護課 3係	11名
中国四国厚生局地域包括ケア推進課	4名	府中町福祉課(障害担当部署)	3名
広島県地域共生社会推進課	3名	府中町社会福祉協議会(SC)	2名
広島県西部保健所広島支所	1名	府中町包括支援センター	4名



4 第1回支援（3）～終了後の振り返りと見えてきた課題～

終了後の振り返り

- ✓ 本来なら地域の資源やその他の事業で対応できる場合もあるのに、**選択肢がないため**、全て従前相当サービスになっている
- ✓ **資源の見える化**が必須。きちんと見える化されれば、サービスを使うことなく地域に戻れる人もいる（選択肢がなく見えるが実際にはある）
- ✓ 同じ課でも係が違うだけで、**情報を共有できていない**
- ✓ 町役場と包括支援センター、また、町役場内、包括支援センター内でも担当者によって**基準が異なっている**ことがわかった
- ✓ 町役場と包括支援センターでの**目線合わせ**が必要

不安・懸念

- ✓ 優先順位をどうするか
- ✓ 業務が多く、仕組みを考える時間を取れるか



5 第2回支援《R7.10.14(火)》(1)～支援までの協議と取り組み①～

コアメンバー協議 1回

- ✓ 町の人口推移、事業費の推移等の共有、支援を受けて今後の取り組みをまとめる
 - 入口…窓口受付のフローチャート、基準の見直し、役場と包括との目線合わせ
 - 事業(見直し、創設)
 - … 半日型DSと一日型DSの報酬が同じ問題、入浴、生活援助型の訪問
 - 出口…資源の見える化(高齢介護課内、社協 ほか他部署)
- ✓ 町/社協/包括で1.5mtgまでに取組むことの洗い出し





5 第2回支援(2) ～支援までの協議と取り組み②～

課内協議 5回(うち、2回ADと県職員も参加)

- ✓ 1回支援の振り返りと今後の課題やスケジュール
- ✓ 町内介護事業所に対しての説明をどうするか
- ✓ 具体的な課題抽出(・現状の確認 ・町が考えるあるべき姿 ・現状との乖離)
- ✓ 1回支援後に協議した内容を支援チームと共有、他部署の資源の情報共有
- ✓ 工程表作成及び課題の優先順位(マトリクス表にまとめ)
- ✓ なぜ支援を受けることになったかを課内で共有できておらず、経緯を一から説明

R6の事業は総合事業担当部署メインで進めており、他の係で関わった職員はほぼ異動。

前年度もいたが関わっていない職員と、異動してきた職員が多い

いきなり「伴走支援に応募しました！」と何かが始まったが、何がしたいのかわからないとの意見あり

【関係機関へ依頼】

社協…社協で実施している資源の見える化

包括…ニーズの把握:ある1月の総合事業利用者のケアプラン等からニーズを拾う

5 第2回支援(3) ～当日午前～

- ✓ 地域資源の見える化、事業の整理
- ✓ スケジュールの検討
- ✓ 午後の部(介護事業所への説明等)の進め方
- ✓ ビジョン

【参加者(終日)】 計27名

加速化事業アドバイザー	2名
中国四国厚生局地域包括ケア推進課	4名
広島県地域共生社会推進課	3名
広島県西部保健所広島支所	1名
府中町高齢介護課 3係	11名
府中町社会福祉協議会(SC)	2名
府中町包括支援センター	4名



5 第2回支援(4) ～当日午後～

✓ 介護事業所への説明とグループワーク

府中町の現状の説明

- ・人口推移
- ・総合事業費の推移と上限超過
- ・介護人材不足

✓ グループワーク

- ・町の現状を聞いた上で、各々の立場から意見、現状の共有

【参加者(午後のみ)】 計21名

府中町包括支援センター 1名

居宅介護事業所 7名

第1号訪問事業所 2名

第1号通所事業所 11名

【参加者(終日)】 27名

午後の部合計48名



5 第2回支援(5) ～グループワークでの意見～

- ✓ 介護保険料を払っているから、**たくさん使いたいという人が多い**
- ✓ デイサービスでは、基本的に**「卒業」という概念がない**
(これまでであるとしたら、骨折した人がリハビリ的に利用するくらい)
- ✓ 利用者を卒業させても**事業所にメリットがない**(財政的な問題)
- ✓ **要支援1は週1回しか利用できないのに、事業対象者は2回利用できる**ため、
要支援2から1になった人が、認定を外して事業対象者になることがある
- ✓ 地域のグランドゴルフに行っていたり**就労しているのに、デイサービスに通っている**人がいる
- ✓ サービスの選択肢が少なく、**選択肢さえあれば従前相当サービスでなくてもよい**という人もいる



6 第3回支援《R8.1.20(火)》(1) ～支援までの協議と取り組み～

- ✓ コアメンバー協議 2回
 - …事業予算シミュレーション、今後の進め方、ビジョン等
- ✓ 課内協議
 - …ここからは課内会議ではなく、分科会を5つ立ち上げ、各分科会での協議（分科会については、次のスライドで）
- ✓ 短期集中予防サービス研修会(R7.12.17)
 - …田中ADに広島まで来ていただき、短期集中予防サービスについて学ぶ
- ✓ 短期集中予防サービスの先進自治体である竹原市視察(R8.1.6)



分科会構成			
分科会	大分類	中分類	小分類
入口 問題	入口	規範的統合	マニュアル・フロー作成
			窓口相談票作成
			事業対象者の選定基準(基本チェックリスト該当者の選定基準)
			共有
	周知	周知(広報誌等)	
	入口・ 出口	アセスメント/インフォーマルサービス へのマッチング	アセスメント力の向上
対象者像の明確化			
事業 設計	一般介護予防	サービスの見直し	一般介護予防事業
	サービス・活動C	新しい総合事業の創設	先進自治体の視察
			サービス・活動Cの新サービス創設と見直し
			モデル的事業の実施
			ニーズの把握
	半日型デイ/サー ビス・活動A・B		半日型デイの単価見直し
サービス・活動A・Bの創設			
出口 問題	入口・出口	アセスメント	資源の見える化
	出口	インフォーマルサービスへのマッチング	資源の見える化
		見守り	生活支援体制整備事業との連動

6 第3回支援 (2) ~当日~



午前

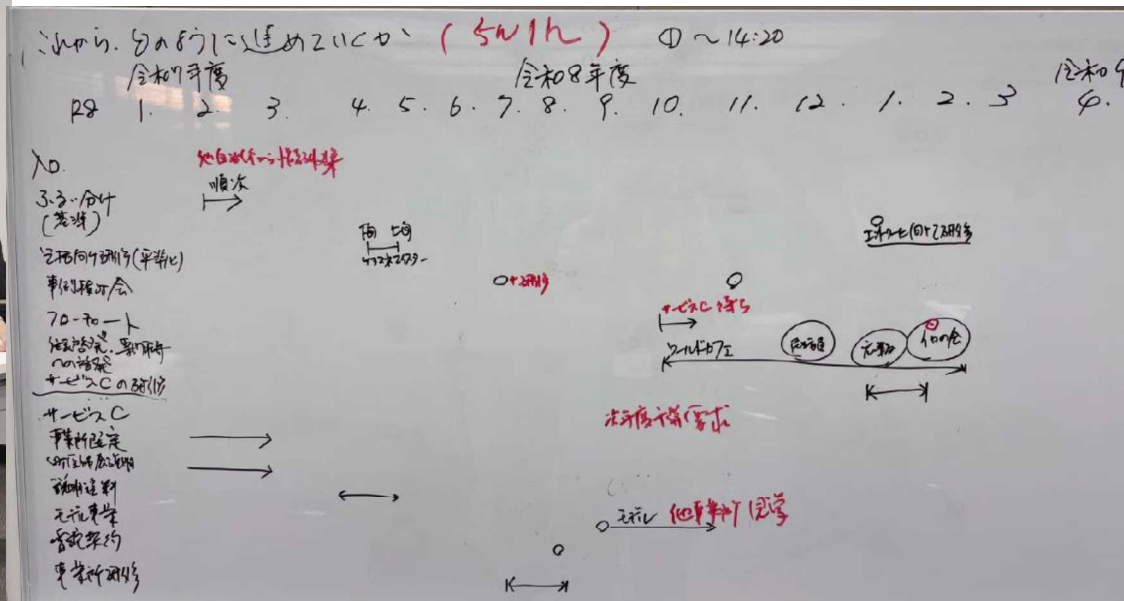
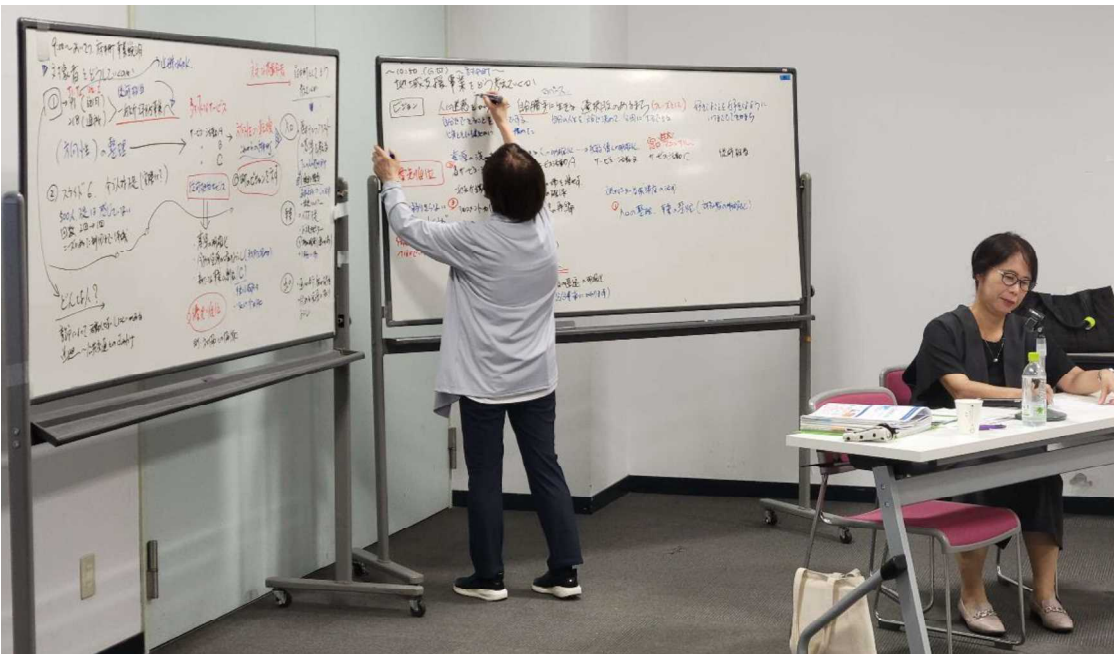
- ✓ 分科会の進捗状況
- ✓ 視察の報告
- ✓ 各分科会の内容、他分科会から意見・助言

午後

- ✓ 今後の取組み、方向性の確認
- ✓ 今後のスケジュール
1年間の流れを作成し、全員で共有

【参加者(終日)】 計27名

加速化事業アドバイザー	2名
中国四国厚生局地域包括ケア推進課	4名
広島県地域共生社会推進課	3名
広島県西部保健所広島支所	1名
府中町高齢介護課 3係	11名
府中町社会福祉協議会(SC)	2名
府中町包括支援センター	4名





7 支援後の気づき、思い

- ✓ 今後のスケジュールを決めることができてよかった
- ✓ 一部の人に総合事業見直しに取り組む余力がなさそうに見えた
せっかく専門職がいるのに事務職で手一杯なのはもったいないと感じた
- ✓ 立場の異なるところで、みんなで同じ方向に進めていくことの難しさを感じた
が、いろいろな話が聞けてよかった
- ✓ 関係者間で話し合える場である分科会を作れたのは大きな成果だと思う
- ✓ 考えていた内容が話し合いを通じて、構想が膨らんでいくのを実感した
- ✓ これまで希薄だった横のつながりが取れるようになった
- ✓ これをきっかけに、定期的に目線合わせをしていきたい

8 来年度に向けて ～ 今後の取り組みとビジョン ～ (1)



入口分科会

基準・フローチャート作り
研修、住民・専門職への啓発

一般介護予防事業分科会

見直し方針作り
事業者との協議

サービス・活動AB

半日型デイサービスの報酬単価再設定(サービス・活動Aの創設)
認定ヘルパー事業開始(サービス・活動Bの創設)

サービス・活動C分科会

モデル事業の実施(事業の見直し)

出口分科会

掲載内容整備

8 来年度に向けて ～ 今後の取り組みとビジョン ～(2)



ビジョン

住み慣れた地域で 自分らしく生活できる 選択肢のあるまち

【最後に】

田中アドバイザー、藤原アドバイザー、中国四国厚生局のみなさま、広島県のみなさま、事務局のみなさま、長いようであっという間の一年でしたが、本当にお世話になりました。頻繁に役場まで来ていただいたり、電話で相談にのっていただいたり、きめ細かな支援をいただき、本当に感謝しています。

やるべきことが見える化したこと、横のつながりができたこと、ビジョンが決まったことが今回の大きな成果だと思っています。

これからはチーム一丸となって進めていきますので、これからもよろしくお願いします！

ご清聴ありがとうございました



府中町の健康応援団長
朝パツ君





地域づくり加速化事業

～府中町の介護予防・日常生活支援総合事業等の
リ・デザインに向けて～

令和8年3月6日

広島県 健康福祉局 地域共生社会推進課

広島県の概要



市町数	23市町
人口	272万8771人 (R7年1月1日現在)
高齢化率	30.1% (R7年1月1日現在)
認定率	20.1% (R7年3月末現在)

人口：5万2074人
高齢化率：25.1% (県内21位)
(R7.1月1日現在)

確かに、総合事業の上限額を超えている。昨年度の県事業を通じて、課題も明らかになったし、取組に弾みがついたらいいな。



広島県における地域包括ケアの推進に向けた取組

第9期ひろしま高齢者プランに基づいた地域包括ケアシステムの質の向上

○地域の特性・実情に応じた体制づくりへの支援

広島県地域包括ケア推進センター

設置：広島県（平成24（2012）年6月）

委託先：広島県地域保健医療推進機構

場所：広島県医師会館（広島市東区二葉の里）

体制：センター長（県健康福祉局長）、副センター長、保健師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士等

業務：市町、地域包括支援センター、専門職等への支援

広島県
独自の取組

研修開催

アドバイザー派遣

専門相談

普及啓発

等

<主な支援内容>

- ・地域包括支援センターの機能強化、住民主体の通いの場の充実、生活支援の体制整備の推進、地域リハビリテーション専門職等の育成、自立支援型ケアマネジメントの推進、認知症介護相談、高齢者虐待対応 等

藤原ADとは一緒に市町支援を行っており、普段から連絡・連携を行う関係になっているから有難い…



○地域包括ケアシステムの評価指標の設定し、体制構築・質の向上を図る

○市町の実情に応じた一体的・総合的な伴走支援（総合支援チーム）

広域的かつ専門的な観点から、県、県保健所、県地域包括ケア推進センターが連携して、研修や個別事業等を通じた支援を行う。



1回目前

オリエンテーション (5/7)

- ・ 0.5mtg事前打合せ (5/7厚生局・県)
エントリーシート記載内容の確認等
- ・ 0.5mtg (7/9支援チーム)

2回目前

第1回目支援 (7/24)

- ・ 1.25mtg (8/7 AD・厚生局・県)
入り口・事業・出口に分けて課題整理
- ・ 支援者間mtg (8/19 AD・県)
- ★地域支援事業交付金の上限超過に係る取扱いについて (県→厚生局に照会)
- ・ 厚生局からの回答を町に説明。(10/7 AD・厚生局・県)
- ★行程表とマトリクスのたたき台を作成→AD・厚生局に修正・追記依頼。
- ・ 町の事業所への説明資料作成の助言・包括から提出されたニーズ把握について独自に分析

3回目前

第2回目支援 (10/14)

- ★地域支援事業交付金 総合事業費シュミレーションのたたき台を作成
- ・ 適宜、町からの質問への回答案を作成
- ・ 2.25mtg (10/20 AD・厚生局・県)
行程表・窓口マニュアル・事業費シュミレーション作成に向けて
- ★支援者間勉強会 (11/2 AD・厚生局・県)
- ・ 支援者間勉強会を経て、町への説明内容の検討・協議 (11/5 厚生局・県)
- ・ 支援者間勉強会の内容を町に説明 (11/6 厚生局・県)
- ・ 町で分科会が発足！
- ・ 田中ADによる短期集中予防サービスの講義 (12/17 AD・厚生局・県)
- ・ 短期集中予防サービス県内先進市町 視察 (1/6 AD・厚生局・県)

第3回目支援 (1/20)

適宜、
ADと厚生局
と町との
調整・連絡
・相談

広島県としての支援

地域支援事業交付金の上限超過に係る取扱いについて (県→厚生局に照会)

府中町で総合事業のリ・デザインを検討する上で、地域支援事業交付金の遡減は同時に検討すべき課題。

地域支援事業交付金の事前申請の個別協議事由（事由2介護予防の効果が高い「新たなプログラム」の実施）について疑義照会を行い、厚生局とともに町に説明。

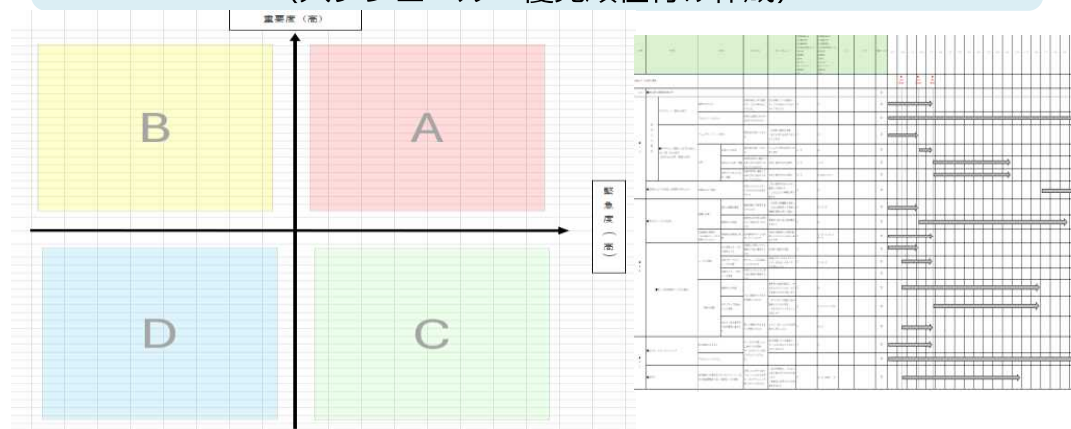
支援者間勉強会（AD・厚生局・県） 日曜日 10:00～17:00

【内容】

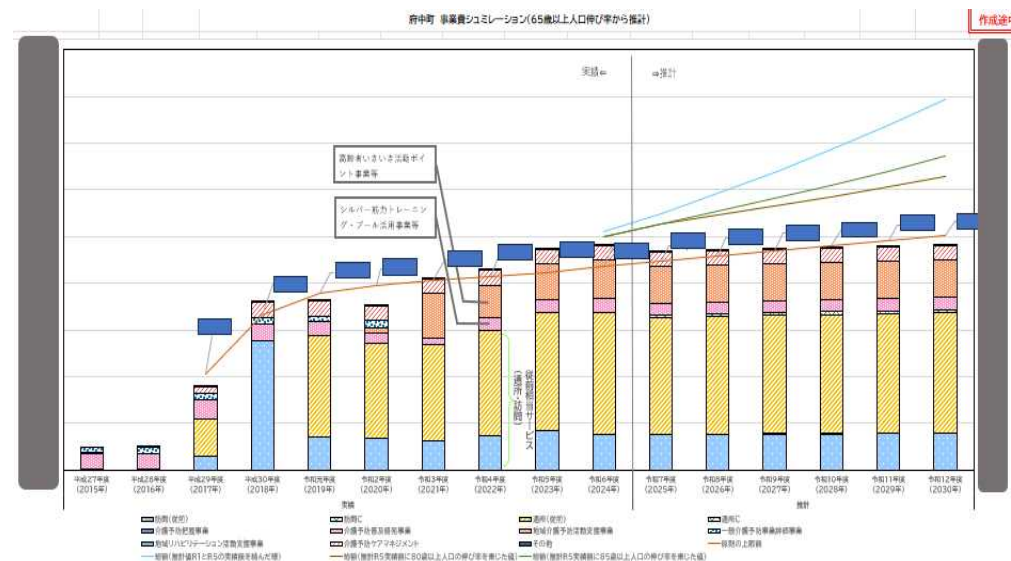
府中町・包括C・社協等がまとめたデータを活用し、アドバイザーの助言の元、支援チームで次の内容を検討。

- ・府中町の課題の再共有
- (1)従前相当の見直し
 - ・1日デイ・半日デイの単価設定
 - ・事業対象者の利用できる頻度の設定
 - ・基本チェックリストの運用方法
 - ・認定申請の基準について
- (2)一般介護予防事業の見直し
- (3)短期集中予防サービスCの創設に向けて
- (4)地域支援事業上限超過を遡減していくための事業見直しパターンに合わせた事業費シュミレーション

行程表とマトリクスのたたき台の作成 (スケジュール・優先順位付け作成)



地域支援事業交付金 総合事業費シュミレーションのたたき台作成



府中町支援にあたっての県として意識したこと及び学び



思いを言語化して共有すること。
関係者間で肌感覚を共有し、共通認識を持つには、
様々なデータ分析が必要。
=見える化

市町が方向性を検討する中で、適切な決定ができる
ように先進事例や県内市町の取組内容等
について情報提供する。

自身が町担当者の立場になったらどう考えるか。
ともに考える姿勢。

事業の垣根を越えて俯瞰的な視点で、連動性を意識
しながら、取組を考える。

今後の取組

- ・ 様々なデータ分析結果の提供や総合支援チームによる伴走支援を通じた市町・包括C等の関係者のコミュニケーションの促進
- ・ 県職員の市町支援の質の向上・市町の目指す姿に応じた常時・継続的な支援（対話・ビジョンの共有）
- ・ 市町が自走できる体制づくりのために、身近な伴走者として町の状況等を把握し、バックアップする。



元気、
美味しい、
暮らしやすい
ENERGY OF PEACE
ひろしま

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/>



積極的に取り組んでいただいた府中町の皆様・
田中AD・藤原AD・中国四国厚生局の皆様
大変ありがとうございました！

令和7年度 地域づくり加速化事業 伴走支援（府中町）

奈良県福祉保険部 次長 田中 明美



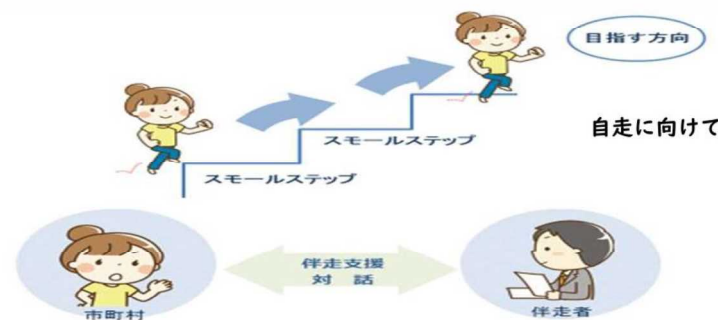
府中町の伴走支援について

総合事業の上限超過が課題で広島県のプッシュの元、加速化事業にエントリーされた府中町さん。

課内の人員が不足している中、勇気を振り絞りエントリーしたものの、現状把握するだけでも大変な労力を要し、途中、職員の皆様が疲弊する場面もあり、どうすれば限られた人員の中で、中長期的な取組を考え、現実のものとしてとらえ直すことができるだろうか？と支援チームも随分悩みました。

府中町さんの負担軽減のために、通常の支援スキームを除外しして、中国四国厚生局・広島県・広島県地域包括推進センターのご協力を得て、支援チームも勉強会を休日に実施したり、別途、府中町さん向けの研修会を設けたりしながら、サポート体制を強化していきました。

昨年、広島県の事業で支援に入っていたコンサルさんとも連携し、情報共有も行いながら、府中町さんにとって負荷が少ない方法を模索しながら、展開していきました。



伴走支援で府中町に生じた変化

1. 大変だったけれど、エントリーして継続した支援を受けることで、上限超過の背景・要因がさらに明確になった
2. 人間的に恵まれない環境の中でも、何とかしていかねば・・・という思いが、主担当者以外にも徐々に広がり、庁内外の関係者にも伝わり、共に頑張っていこうという機運が高まった
3. 課が一丸となり、町長にも現状を伝えながら、上限超過の解決に向け自分たちの考えを伝えきることができた
4. 定期のミーティングや支援日以外にも中国厚生局や広島県、地元アドバイザーの藤原さんたちのサポートを対面で受けるなど、時間を割いて【この本質】に向き合う体制が整っていった。



府中町さんへのメッセージ

1. 社協さんが地域包括支援センターも重層的支援体制整備事業も受託しておられるので、社協さんとこれまで以上に連携を密に図り、ともに地域づくりを進めていけるよう、対話の機会を意識して持つように心がけ車の両輪のような関係性を継続して行ってください
2. 広島県さんや広島県地域包括ケア推進センターのお力も借りながら、最後の支援で関係者みんなで考えたロードマップを元に役割分担しながら、高齢者の皆様のwell-beingを目指して、取組を進めて行って下さい
3. 人事異動があってもこの半年の努力が無駄にならないように、しっかりと引継ぎをしながら、取組を進めて行ってください。社協さんと町が車の両輪として強固な体制を構築して行ってください
4. 受援力も大切ですので、困った時・不安な時は「助けて！」「協力して！」と言えるように、抱え込むことを避けていきましょう



支援者の大切な役割について

1. より多くの人との対話を促す場の工夫・設定等（巻き込み術）
2. 今ある仕組みを活かす方法を市町村とともに模索・検討
3. 市町村職員だけでは取り除けない障壁について、上席・管理職等の理解を促す働きかけ・情報の共有
4. 市町村の参加チームがワンチームになるための心理的サポート
5. 市町村ごとに必要な情報提供と課題の整理、取組の優先順位を検討
6. 少しずつ関与の幅を縮小していき、自走できる体制の構築



令和7年度地域づくり加速化事業について

令和8年3月4、6日 地域づくり加速化事業 報告会

厚生労働省 中国四国厚生局
健康福祉部 地域包括ケア推進課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

支援先市町村、アドバイザーについて

岡山県 倉敷市 様

アドバイザー

- ・ 服部 真治 様 (株式会社日本能率協会総合研究所 福祉・医療・労働政策研究部 主幹研究員)
- ・ 畑山 浩志 様 (洲本市 介護福祉課 長寿支援係 理学療法士・生活支援コーディネーター)
- ・ 井澤 久美 様 ((一社)日本リエイブルメント協会 エグゼクティブスーパーバイザー)



広島県 府中町 様

アドバイザー

- ・ 田中 明美 様 (奈良県 福祉保険部 次長)
- ・ 藤原 薫 様 (広島県地域包括ケア推進センター 次長)



支援状況等について

伴走的支援スケジュール

	岡山県倉敷市	広島県府中町
0.5mtg	令和7年8月5日	令和7年7月9日
第1回目支援	令和7年8月29日	令和7年7月24日
1.5mtg	令和7年10月1日	令和7年9月9日
第2回目支援	令和7年12月22日	令和7年10月14日
2.5mtg	令和8年1月26日	令和7年12月3日
第3回目支援	令和8年2月12日	令和8年1月20日

厚生局の関わり方について ～厚生局主導型として支援～

厚生局の立ち位置を踏まえ、それぞれ次のようなことを意識して支援に関わりました。

支援開始まで

① 加速化事業の周知

各県から市町村への周知を依頼に先立ち、医療経済研究機構中村 一郎 様、島根県出雲市様にもご登壇いただき、オンラインによる事業説明を行った。

② 倉敷市、府中町について情報収集

各自で介護保険事業計画、総合振興計画等を読み込むことはもちろん、倉敷市、府中町を知るための課内勉強会を行った。

③ 県とともにエントリー内容についてのヒアリング

エントリーシートの内容を踏まえたうえでそれぞれ県同席のもと打合せを行った。

④ 依頼するアドバイザーの検討、調整

③を経て、課内で依頼するアドバイザーを検討し、調整を行った。

伴走的支援事業の概要について

地域づくり加速化事業

厚生労働省 中国四国厚生局
健康福祉部 地域包括ケア推進課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

意見交換の様子



・チェックシートを活用して地域課題を定量化し共有することとし、そのイメージを関係者間で共有した。
・自主的な課題解決の姿が見えた。

3回目支援 (R7.1.15)

・加速化事業成果の整理を行った
・市の第2層協議体において、担い手確保の取組の現状の協議、アドバイザー講義、ワークショップ、意見交換等を行った
・振り返り、今後の方針について意見交換を行った

・地域課題を抽出して解決するための検討を行う仕組みづくりとして、1層協議体の位置づけを再確認できた。
・2層協議体でSCが活動を推進していくことについて、1層協議体の理解を得ることができた。

2回目支援 (R6.11.19)

・ニーズ把握の必要性・方法について講義、意見交換
・市の第1層協議体において、市の現状と課題の共有、担い手確保の取組の検討、アドバイザー講義、意見交換等を行った
・振り返り、今後の方針について意見交換を行った

1回目支援 (R6.9.27)

・出雲市の現状、方針についてすり合わせを行った。
・市の第2層協議体において、市の現状と課題の共有、担い手確保の取組の検討、アドバイザー講義、ワークショップ、意見交換等を行った
・振り返り、今後の方針について意見交換を行った。

・担い手確保はあくまでひとつの手段であり、課題解決のためには、様々な手段を複合的に検討していく必要があることを共有した。



グループワークの様子



会議（第1層協議体）の様子

厚生局の関わりについて

岡山県倉敷市

① 管区機関の強みを活かした関わり

先進地（防府市）への視察にあたり、ADと連携し調整を行い、視察、意見交換に同席した。

② 倉敷市様と支援チームとの橋渡し役

オンラインミーティングや現地支援の場だけでは共有しきれない、細かな状況変化や現場の声を把握し、必要に応じて速やかに支援チームへ共有するよう努めた。

また、倉敷市様が抱える疑問点や課題についても、関係者間の情報を速やかにつなぐことで解決の糸口を早期に見つけられるよう、橋渡し役として機能した。



意見交換の様子

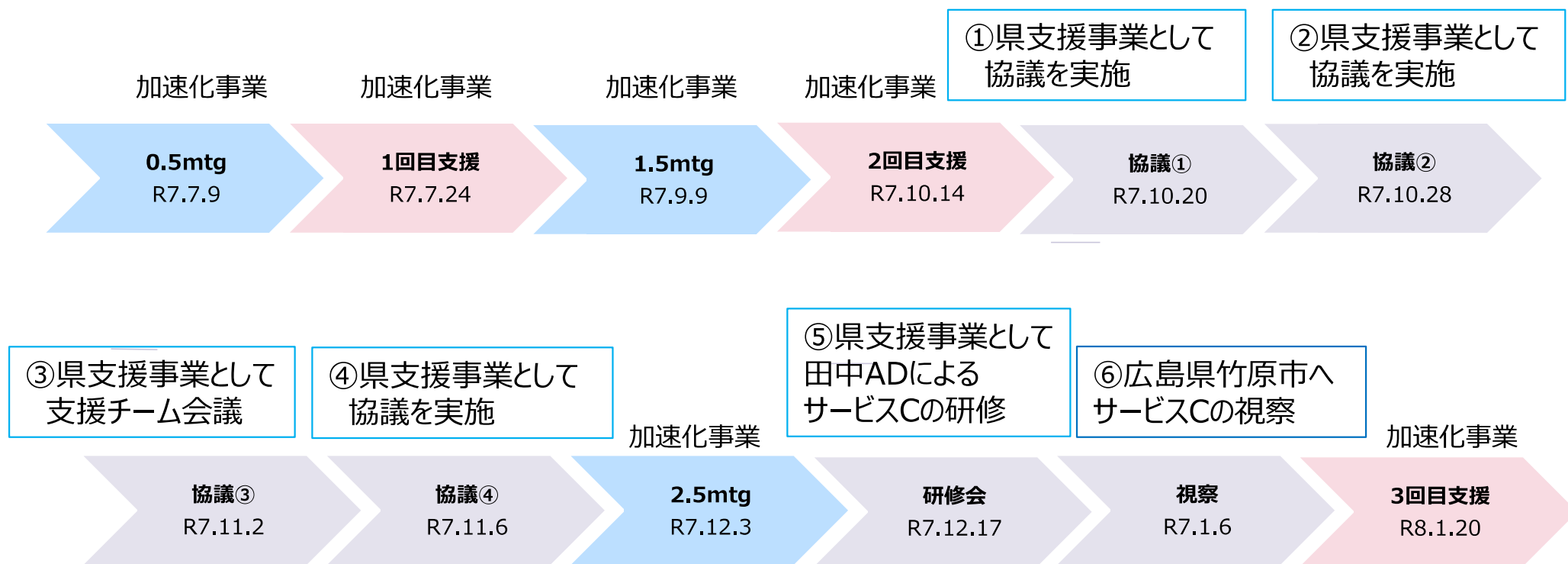


意見交換の様子

支援を振り返って ～ 加速化事業に広島県の支援を組み合わせた支援 ～

広島県府中町

加速化事業支援パッケージ + 広島県支援事業（計4回の協議、研修会、視察）



～ 支援を通じてあらためて感じたこと ～

県の市町村への支援の大切さ

→加速化事業終了後を見据え、市町村に身近な「県の継続した支援」につなげていくこと